（上）パネルディスカッションの様子
（左）基調講演の様子

公開シンポジウム

リスクコミュニケーションを通して災害に備えるまちづくり

名古屋都市センターを会場として開催し（オンライン併用）、大学研究者・学生、自治体職員、都市計画コンサルタントら 102 名（うちオンライン 85 名）の参加があった。

まず、２題の基調講演「逃げ地図を起点とした防災まちづくりの促進」（山本俊哉氏：明治大学）および「和歌山県における南海トラフ地震対策の取り組み－命と地域を守る－」（牧紀男氏：京都大学）、さらに自治体から２題の話題提供「歴史都市金沢における防災指針の策定」（山谷清椰氏：金沢市）および「立地適正化計画および防災計画における DX 活用の課題と展望」（横井健一氏：岐阜市）があった。また、益尾孝祐氏（愛知工業大学）をコーディネーターにパネルディスカッションをおこない、地域住民を交えたリスクコミュニケーションの在り方や、担い手の育成について、活発な議論が交わされた。

【報告者】
椙山女学園大学　文化情報学部　今村洋一